

# 第36期 報告書

平成27年4月1日 ▶ 平成28年3月31日

証券コード: 7575

...for patient comfort.



**JIL** Japan Lifeline

# 主要連結財務データ

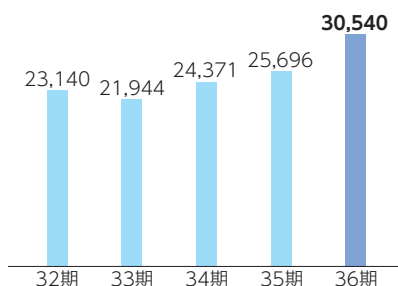
## Financial Highlights

### 当期決算のポイント

- ・ オンリーワン商品等の好調な販売
- ・ 自社製品の売上構成比増加による売上総利益率の改善
- ・ 売上規模拡大に伴う販管費比率の低下により、営業利益率が改善
- ・ 投資有価証券売却益を特別利益として計上

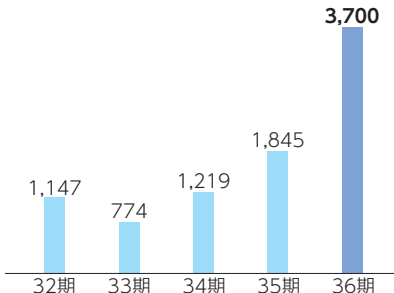
#### 売上高

(単位:百万円)



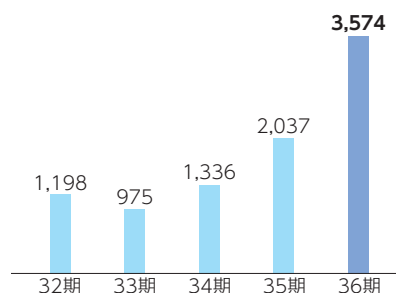
#### 営業利益

(単位:百万円)



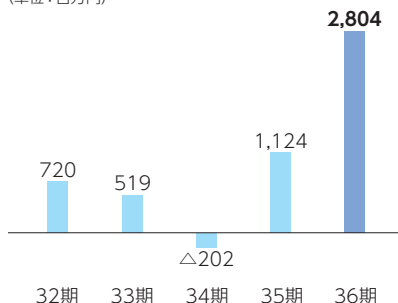
#### 経常利益

(単位:百万円)



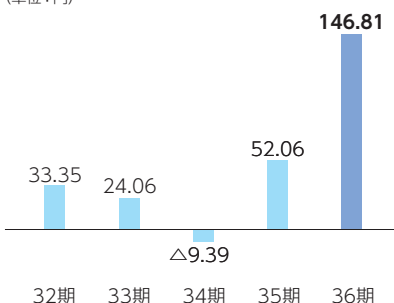
#### 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



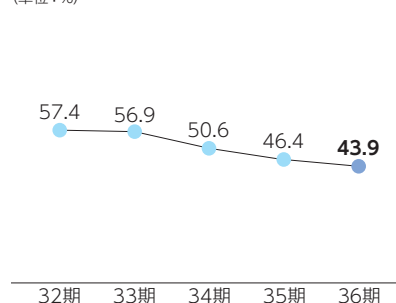
#### 1株当たり当期純利益

(単位:円)



#### 自己資本比率

(単位:%)





# トップインタビュー

Top Management Interview

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社は平成28年5月23日をもちまして東京証券取引所JASDAQから、同取引所市場第一部へ上場市場を変更いたしました。

これを新たな成長に向けたスタートとして捉え、今後もステークホルダーの皆様のご期待にお応えできるよう、さらに事業の発展に努め、企業価値を高めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介

### Q

当期の業績はいかがでしたか？

**A** 当期におきましては、リズムデバイスにおいて心臓ペースメーカーの新商品導入により売上高が増加したことや、オンリーワン製品を中心とする自社製品が、市場の拡大を背景としてさらに成長したこと等から、前期に比べ18.9%の増収となりました。

また、損益面におきましては、収益性の高い自社製品の売上構成比が上昇したことから、売上総利益率は前期に比べ2.2ポイント改善いたしました。また、販売費及び一般管理費におきましては、新商品導入のための薬事関連費用や自社製品の開発費用等を中心として、全般的に費用が増加したものの、売上高の増加と売上総利益率の改善により、営業利益は、前期に比べ倍増となるなど、各利益段階にお

### Q

販売状況について教えてください。

**A** 当期の販売実績といたしましては、リズムデバイスにおきまして、昨年3月にMRI(磁気共鳴画像)検査に対応した心臓ペースメーカーを導入したことにより、売上高が前期に比べ増加いたしました。また、EP/アブレーションにおきましては、新製品である食道温モニタリングシステムの専用カテーテル「Esophastar(エソファスター)」が計画を上回り好調に推移したことに加え、オンリーワン製品である心腔内除細動システムの専用カテーテル「BeeAT(ビート)」

が引き続き堅調に推移いたしました。

さらに、外科関連におきましては、人工血管やオープンステントグラフト等の自社製品の販売が好調であったことに加え、仕入商品のステントグラフトにおいても、従来の胸部用に加え、新たに腹部用ステントグラフト「AFXステントグラフトシステム」を本年1月より発売したことが寄与いたしました。

その一方で、インターベンションにおきましては、貫通用カテーテルの販売数量が増加したものの、前期末で販売を終了した商品の売上減の影響を吸収しきれず、売上高は減少いたしました。



腹部用ステントグラフト

「AFXステントグラフトシステム」

左：腹部大動脈への留置イメージ

右：デリバリーシステム

# Q

## 近年の業績拡大の要因は 何でしょうか？

A 業績の牽引役としてはオンリーワン製品を中心とした自社製品の伸長が挙げられます。当社が強みを持つ不整脈治療の領域では、心房細動のアブレーション治療の症例数が年間10%を超えるペースで増加しております。このような市場拡大を背景として、オンリーワン製品である心腔内除細動システムや高周波心房中隔穿刺針が好調に推移し、さらに昨年4月に食道温モニタリングシステムを導入したことにより、EP/アブレーションの売上高は一段と増加いたしました。また、外科関連におきましても、オンリーワン製品であり、低侵襲な治療を可能とするオープンステントグラフトの医療現場への浸透が進んでおります。

こうした自社製品の成長に加え、心臓ペースメーカーの売上が、MRI対応商品の導入により、減少傾向から回復に転じたことや、外科関連における腹部用ステントグラフトなどの導入により、仕入商品の売上高も順調に増加しており、各品目がバランスよく成長していることが近年の業績拡大の要因となっております。

また、利益面におきましても、利益率の高い自社製品が大きく伸長していることに加え、当社は既に全国を網羅する営業拠点を構築しており、開発や製造面においても一定の設備を有することから、販売や開発等に要する固定費は、売上に比べて増加せず、収益構造の改善が進んでおります。

Q

来期の見通しはいかがでしょうか？

A 平成29年3月期の見通しといたしましては、本年4月に行われた保険償還価格の改定により、当社の取扱商品においても価格が引き下げられておりますが、オンリーワン製品をはじめ主要商品における価格改定の影響が小さかったことから、過去の価格改定時に比べて業績への影響も小さいものと見込んでおります。

また、EP/アブレーションを中心とした自社製品につきまして、引き続き症例数の増加を背景として堅調な販売が予想されるほか、仕入商品につきましても、本年1月に導入した腹部用ステントグラフト等の新商品の寄与を見込んでおります。

販売費及び一般管理費につきましては、新商品導入のための薬事関連費用の増加のほか、堅調な自社製品の一層の拡充を目的として、開発関連の費用の増加を見込んでおります。

以上のことから、来期におきましても引き続き増収増益を見込んでおります。

■ 2017年3月期通期業績予想(2016年5月2日付)

売上高	34,699百万円(前期比13.6%)	▲
営業利益	4,686百万円(前期比26.7%)	▲
経常利益	4,832百万円(前期比35.2%)	▲
親会社株主に帰属する当期純利益	3,102百万円(前期比10.6%)	▲



Q

中期の目標について教えてください。

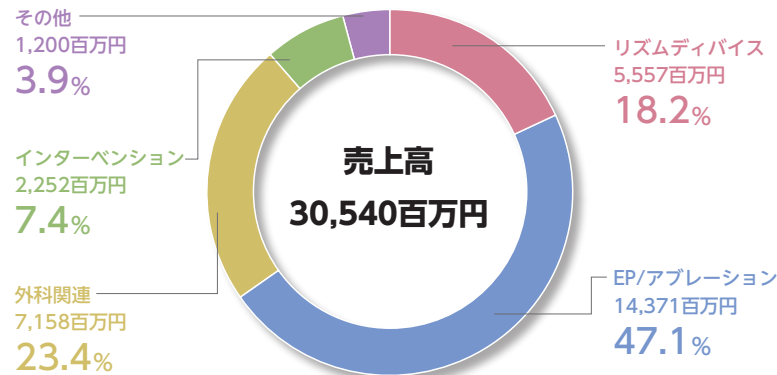
A 当社は、5か年の中期計画を策定しており、每期、直近の業績動向、新商品の契約や新製品の開発等の状況を踏まえて更新しております。本年5月に策定した中期計画では、5年後の2021年3月期において、連結売上高578億円、営業利益率18%の達成を目標としております。

今回の中期計画においては、引き続き自社製品の一層の拡充を図るとともに、新規性の高い海外製品の早期導入により、収益性の向上と売上規模の拡大による継続的な成長を見込んでおります。当社といたしましては、メーカー機能と商社機能を合わせ持つビジネスモデルの特徴をさらに進化させることにより、循環器領域の医療機器における代表的な企業として、次の成長ステージを目指してまいります。

# 品目別売上高

## Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、バルーンカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



### リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比  
**18.2%**

心臓ペースメーカにおきましては、昨年3月より一定の条件下でMRI(磁気共鳴画像)検査に対応した商品の販売を開始したことから、販売数量が前期に比べ増加いたしました。さらに、本年3月からは胸部のMRI撮像も可能となった新商品[KORA250]を導入し、販売数量の増加に努めております。  
以上により、リズムデバイスの売上高は、55億5千7百万円(前期比33.2%増)となりました。

#### 主要取扱品目

- 心臓ペースメーカ
- ICD(植込み型除細動器)
- CRT-D(除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカ

#### 売上高(単位: 百万円)



### EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比  
**47.1%**

EPカテーテルにおきましては、昨年4月より販売を開始した食道温モニタリングシステム用カテーテル[Esophastar]が計画を上回り推移したほか、オンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル[BeeAT]や高周波心房中隔穿刺針[RFニードル]も症例数の増加を背景として、販売数量が伸びました。  
以上により、EP/アブレーションの売上高は、143億7千1百万円(前期比25.5%増)となりました。

#### 主要取扱品目

- EP(電気生理用)カテーテル
- アブレーションカテーテル
- 心腔内除細動カテーテル
- 高周波心房中隔穿刺針



心腔内除細動カテーテル

#### 売上高(単位: 百万円)



### 外科関連

血管や心臓の弁を置き換え  
治療する医療機器を扱う

売上高構成比  
**23.4%**

#### 主要取扱品目

- 人工血管
- オープンステントグラフト
- ステントグラフト
- 人工心臓弁
- 人工弁輪



オープンステントグラフト

人工血管関連におきましては、自社製品でオンリーワン製品でもある「J-Graftオープンステントグラフト」が高く評価され、販売数量が前期に対して倍増いたしました。また、本年1月より、「AFXステントグラフトシステム」を導入し、新たに腹部のステントグラフト市場へ参入したことが寄与いたしました。  
以上により、外科関連の売上高は71億5千8百万円(前期比14.9%増)となりました。

#### 売上高(単位: 百万円)



### インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比  
**7.4%**

バルーンカテーテルは、従来の仕入商品から自社製品である「canPass」への切り替えが進み、利益率が改善いたしました。その他の品目では貫通用カテーテル「Guideliner」が伸ばしたほか、本年2月より、心房中隔欠損閉鎖器具「Figulla FlexII」の販売を開始いたしました。

以上のほか、一部の仕入商品の販売を前期末で終了したことにより、インターベンションの売上高は22億5千2百万円(前期比13.9%減)となりました。

#### 主要取扱品目

- バルーンカテーテル
- ガイドワイヤー
- 貫通用カテーテル



バルーンカテーテル(イメージ図)

#### 売上高(単位: 百万円)



### その他

連結子会社で販売する  
血液浄化装置等の医療機器

売上高構成比  
**3.9%**

連結子会社で販売する血液浄化関連商品等のその他の売上高は12億円(前期比2.0%減)となりました。

#### 主要取扱品目

- 血液浄化関連商品



血液浄化装置

#### 売上高(単位: 百万円)



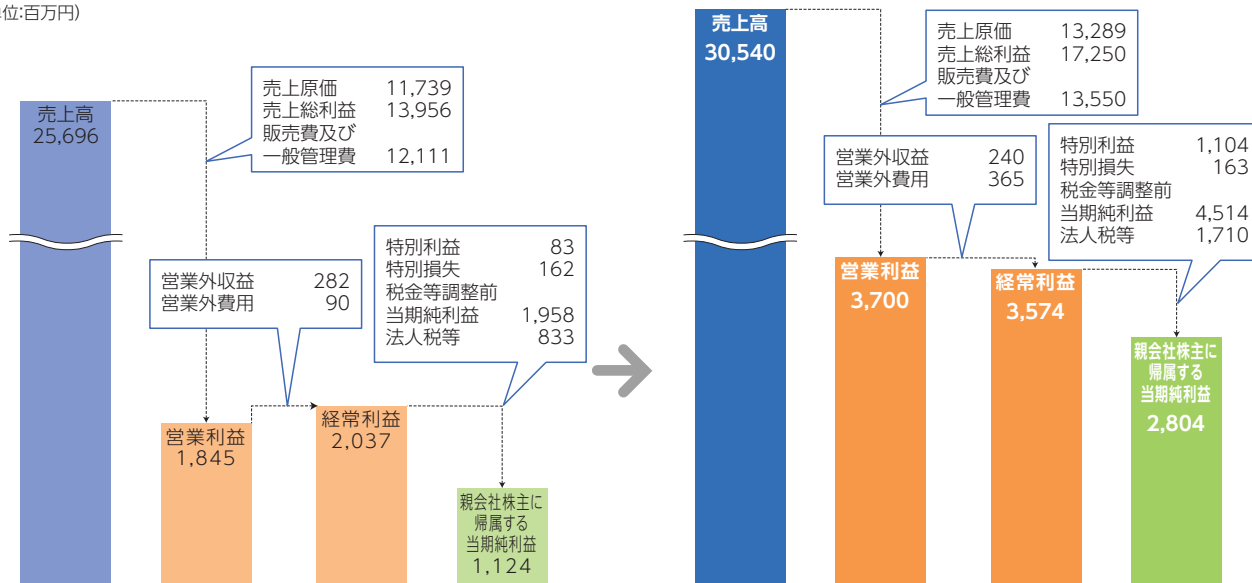


# 連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## 連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



35期(前期)  
平成26年4月1日～平成27年3月31日

36期(当期)  
平成27年4月1日～平成28年3月31日

### 決算のポイント

#### 営業利益

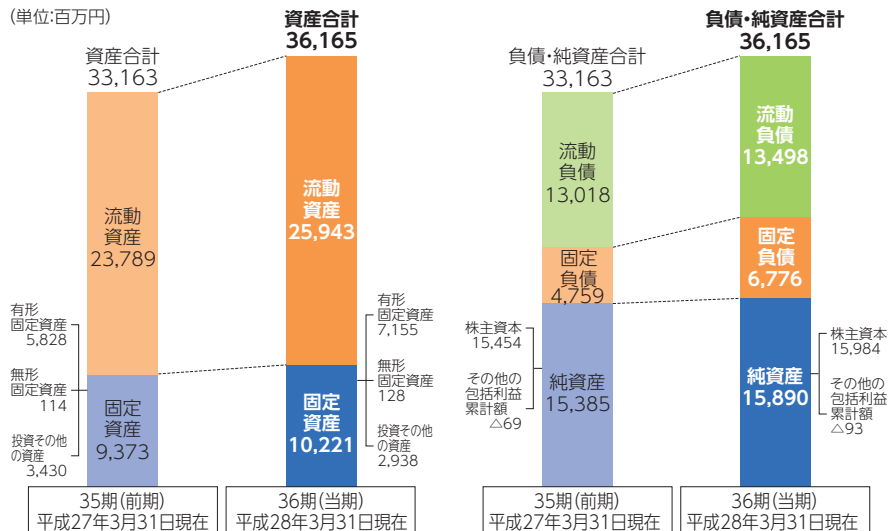
オンリーワン製品を中心に収益性の高い自社製品の売上構成比が上昇したことから、売上総利益率は前期に比べ2.2ポイント改善いたしました。その一方で、新商品導入のための薬事関連費用の増加や、今後の自社製品の拡充に向けて新製品開発を積極的に実施していること等により、販売費及び一般管理費が前期に比べ増加いたしました。以上のことから、当期の営業利益は、37億円(前期比100.5%増)となりました。

#### 親会社株主に帰属する当期純利益

昨年4月22日付の「投資有価証券売却益(特別利益)の計上に関するお知らせ」にて開示しております投資有価証券売却益10億2千8百万円及び小山ファクトリーに係る助成金7千3百万円を特別利益として計上した一方、一部製品の自主回収に伴う廃棄損6千万円及び子会社の工場閉鎖に伴う固定資産除却損6千2百万円を特別損失として計上したことから、当期の親会社株主に帰属する当期純利益は28億4百万円(前期比149.4%増)となりました。

## ■ 連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



## 決算のポイント

### 流動資産

受取手形及び売掛金が20億9千3百万円増加した一方で、未収入金が18億4千7百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ21億5千3百万円増加し、259億4千3百万円となりました。

### 流動負債

支払手形及び買掛金が23億4千万円減少、短期借入金が11億円増加した一方で、未払法人税等が10億9千万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ4億7千9百万円増加し、134億9千8百万円となりました。

### 固定負債

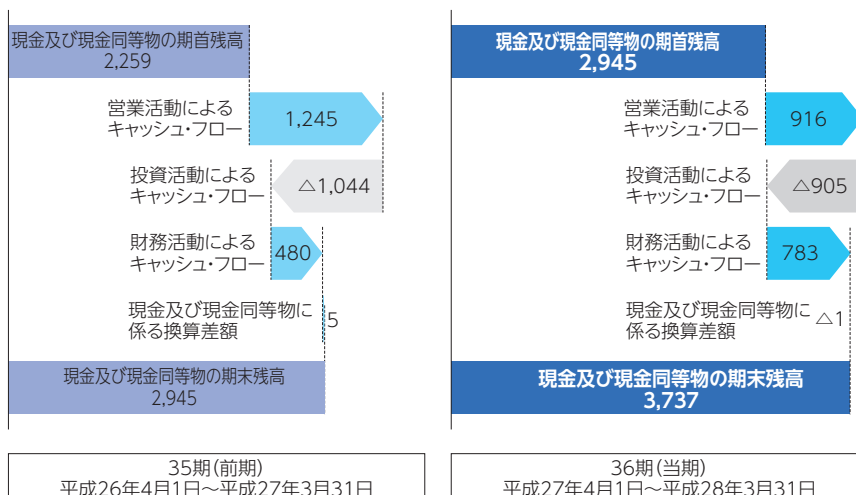
自己株式公開買付け資金及び設備投資資金として長期借入を実行したことにより、長期借入金が19億3千6百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ20億1千7百万円増加し、67億7千6百万円となりました。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益が25億5千6百万円増加した45億1千4百万円を計上したのに対し、売上債権の増加による支出が11億7千7百万円増加した21億5百万円、仕入債務の減少による支出が22億3千9百万円(前年同期は25億3百万円の収入)となったこと等により、前年同期に比べ3億2千8百万円収入が減少し9億1千6百万円の収入となりました。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)





# 会社概況

## Corporate Data

### ■ 会社概要

(平成28年3月31日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	昭和56年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結795名 単体610名
上場取引所	東京証券取引所 第一部 (平成28年5月23日付でJASDAQスタンダードより市場変更)
連結子会社	JUNKEN MEDICAL株式会社 SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司

### ■ 役員

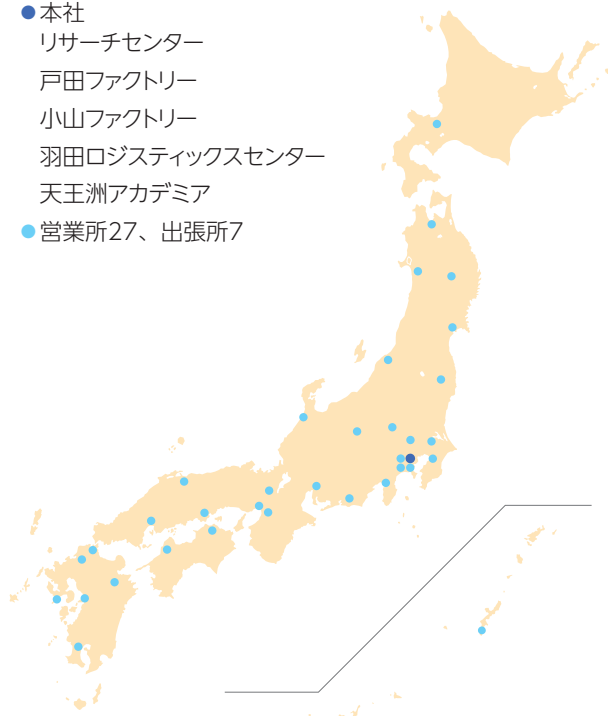
(平成28年6月28日現在)

取締役会長	増本 武司	取締役	山田 健二
代表取締役社長	鈴木 啓介	取締役	渡辺 修
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	社外取締役	佐々木文裕
常務取締役	高橋 省悟	常勤監査役	神谷 安恒
取締役	黒沼 孝之	社外監査役	中村 勝彦
取締役	野上 和彦	社外監査役	浅利 大造

### ■ 事業所

(平成28年6月1日現在)

- 本社  
リサーチセンター  
戸田ファクトリー  
小山ファクトリー  
羽田ロジスティックスセンター  
天王洲アカデミア
- 営業所27、出張所7



最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<http://www.jil.co.jp/investors/>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



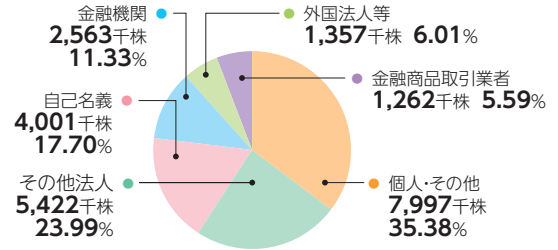
### 株式の状況 (平成28年3月31日現在)

発行可能株式総数	86,600,000株
発行済株式の総数	22,604,994株
株主数	3,411名
大株主	

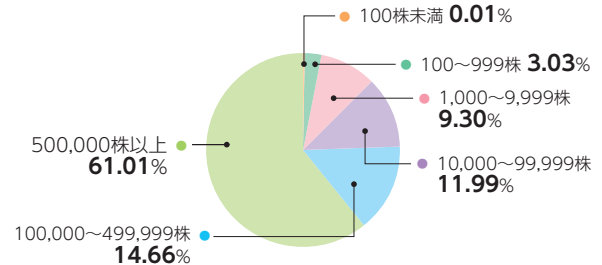
株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	3,040	16.34
KS商事株式会社	2,192	11.78
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,684	9.05
片山晃	824	4.43
カブドットコム証券株式会社	771	4.14
鈴木啓介	662	3.56
増本武司	615	3.31
日本ライフライン従業員持株会	343	1.85
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	295	1.59
上田勝啓	268	1.44

(注)持株比率は、自己株式(4,001,352株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布

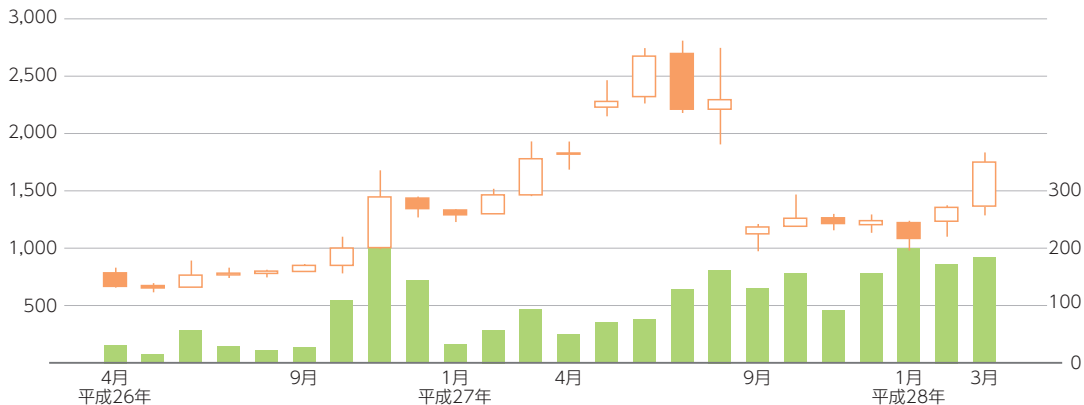


### 所有数別株式分布



### 株価・出来高の推移(月足)

■ 株価(単位:円) ■ 出来高(単位:万株)



当社は平成27年10月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。

## 株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL <a href="http://www.jll.co.jp">http://www.jll.co.jp</a> ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	<a href="http://www.tr.mufg.jp/daikou/">http://www.tr.mufg.jp/daikou/</a>

### 【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
  - ▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  - ▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様  
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について  
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

## 日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号  
電話 03-6711-5200  
URL <http://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。